

# 14.1 破堤による被災事例

## 破堤による氾濫流のエネルギーは甚大！新潟 7月豪雨(H16)

新潟豪雨で五十嵐川や刈谷田川など6河川11箇所破堤  
平成16年は、足羽川、円山川、出石川でも破堤

破堤前

破堤後



洪水氾濫流によりお寺が流出

足羽川(福井県)では、  
左岸堤防が破堤、左  
岸2箇所越水が発生  
し、約14,000戸の住家  
被害が発生！



足羽川左岸破堤部(7月18日撮影)



足羽川左岸福井市内(7月18日撮影)

## 平成17年9月洪水による浸水被害

大淀川(宮崎県)

大淀川支川大谷川の越水状況



大淀川支川大谷川の越水による浸水被害  
(宮崎市下小松[しもこまつ]地区)

太田川でも！  
(中上流部で甚大な被害発生)

軒下に迫る浸水被害！



左岸29k000  
安佐町飯室地区



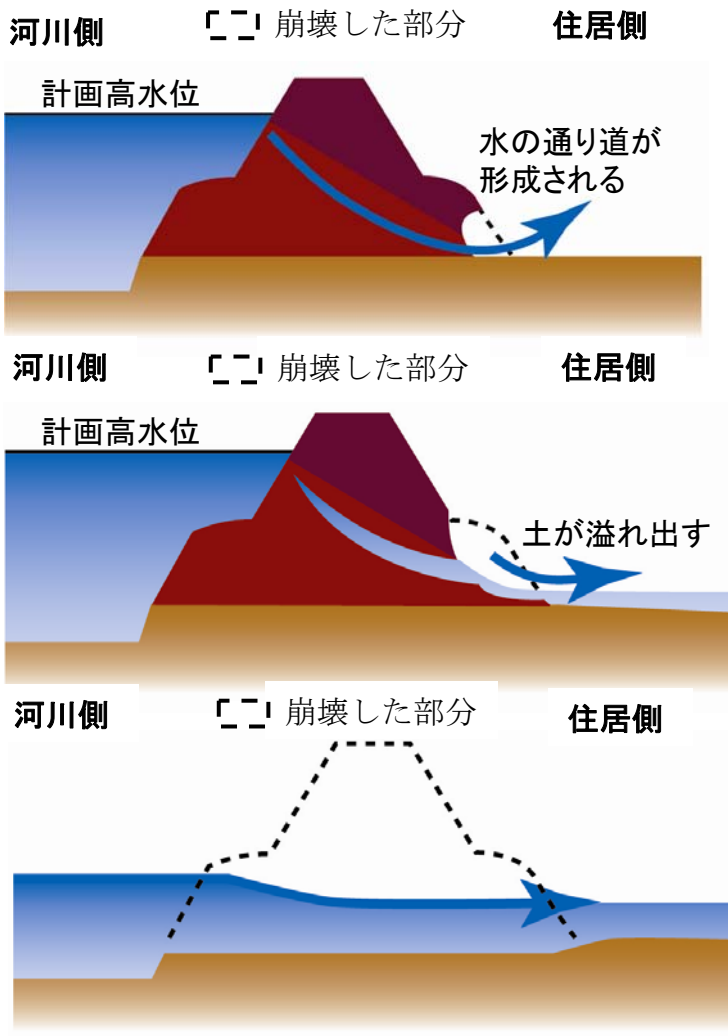
浸水深 1.6m

左岸35k400小河内地区

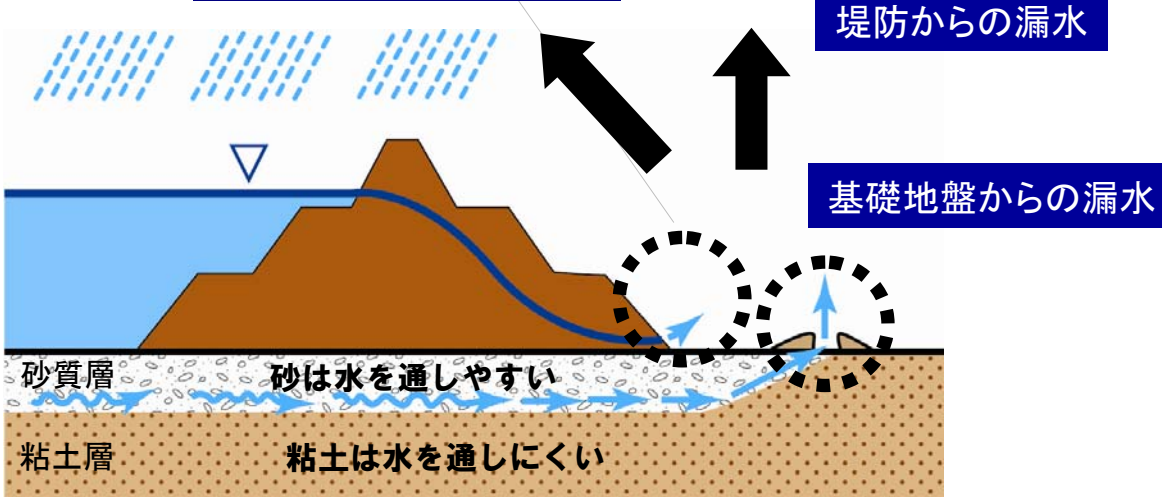
国道191号の冠水

# 14.2 堤防の浸透破壊

《浸透による破堤のメカニズム》  
 河川の堤防は、砂や土を固めて造ったものである。  
 そのため、河川の水位が高い状態が長時間続くと、堤防内の水位も上昇し、堤防の中に水の通り道が形成される。  
 この水の通り道が、徐々に拡大すると、水とともに堤防の土が流れ出し、堤防が崩れることとなる。



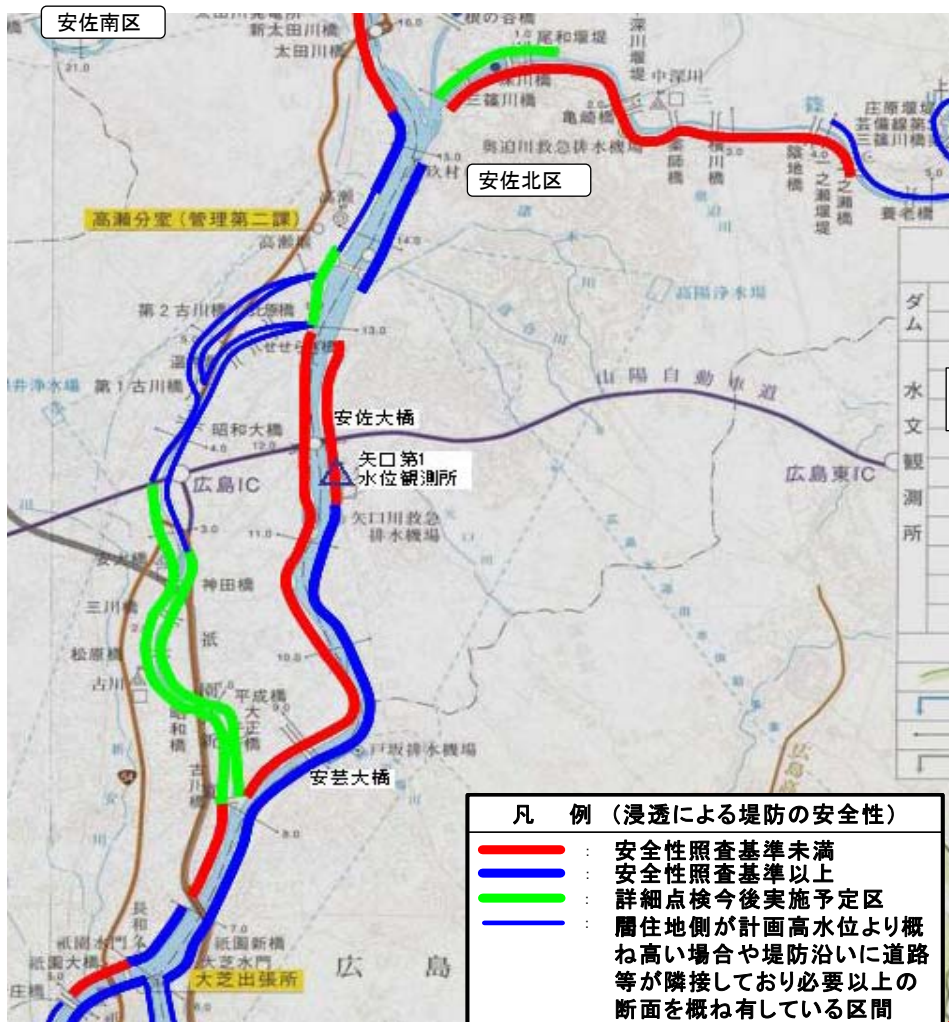
出雲市島村町の堤防で、漏水により堤防法面が陥没。月の輪工による漏水対策を実施。法面の陥没に対しては大型土のう・小型土のうにより法面の崩壊を防止。



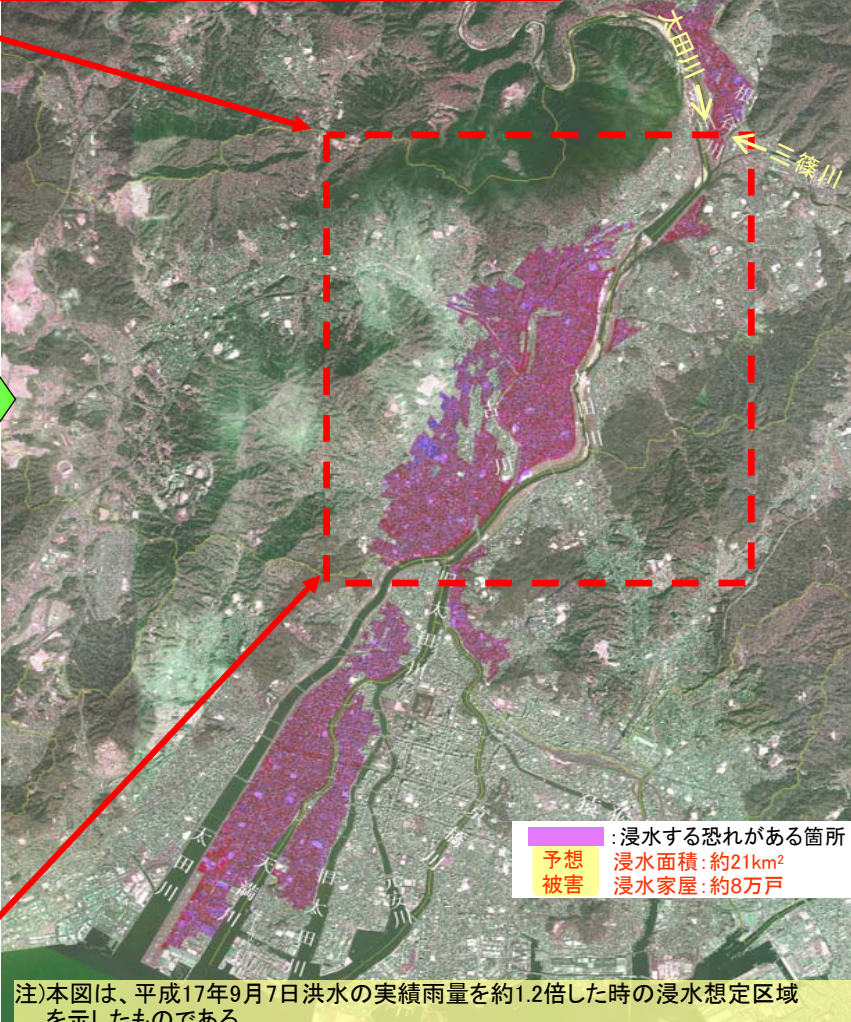
# 14.3 下流部堤防の危険性

- 安佐南区側では、堤防の安全性が照査の基準を満たしていない区間が続く
- 近年開発が進むが、もともと田畑で低く浸水すると被害は甚大
- あと少し雨が強く降っていれば、下流部でも破堤の危険があり、広島市街地が水没する危険もあった

堤防の安全性を示す拡大平面図



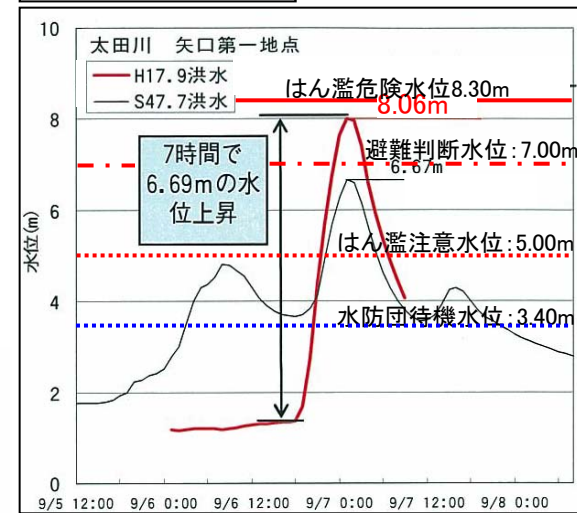
太田川下流の浸水想定区域図



# 14.4 下流部堤防の現状(川内地区)

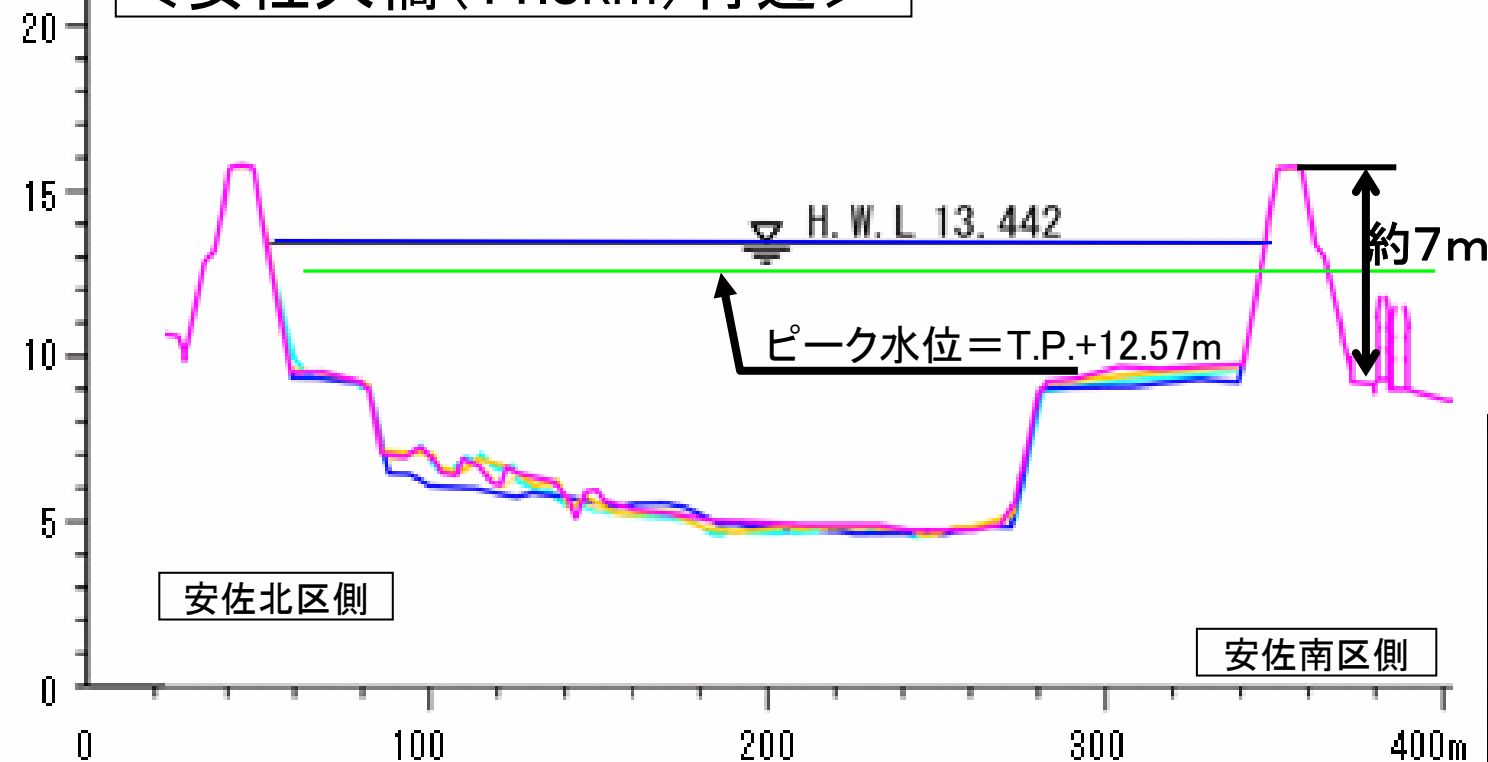
- ・堤防が造られたのは昭和20～30年代と古い
- ・堤防の土は、川を掘って堤防の材料としたものが多く、水が浸透しやすい
- ・堤防の高さは約7mと高く、洪水時は家屋よりも水位が高い
- ・平成17年出水では計画高水位付近まで水位が上昇  
(短時間だったため、堤防の内側も外側も幸い大きな被害無し)

<矢口第1地点>



(T.P.m)

<安佐大橋(11.8km)付近>



洪水時



平常時



平成17年9月洪水時の様子  
9月7日午前4時40分頃 安佐大橋下流より